年頭所感

新年のご挨拶

大阪大学工業会会長　　鈴　木　　胖

新年明けましておめでとうございます。旧年中は本会の活動に多大のご協力・ご支援をいただき、まことに有難うございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年も内外ともに多事多難な年でした。東日本大震災からの復興もなかなか進まず、福島第一原子力発電所の事故によって提起された我が国のエネルギー政策の見直しも混沌として先が見通せない状況が続いています。10月末に開かれた臨時国会では衆院解散の駆け引きのみが目立ち、国政の議論は全く噛み合っていません。尖閣諸島をめぐる日中の争いは両国の経済にも大きな影を落としています。日本を代表する企業のいくつかが年間数千億という巨大な赤字を出すという予想も報じられています。日本が大きな転機に立たされていることを自覚し、各自ができることを考えて新年に臨もうではありませんか。暗いニュースだけではありません。ロンドン・オリンピックにおける若い人たちの活躍、山中伸弥教授が50歳の若さでノーベル賞を受賞されるという嬉しいニュースもありました。本年が良い年になることを願って進もうではありませんか。

さて懸案となっていた当会の一般法人への移行については、5月の総会でご報告しましたように、平成24年2月3日に公益認定等委員会から内閣総理大臣に移行認可相当の答申書が出され、新しい定款（原案は平成23年5月17日の本会総会で承認済）が認められ、現在実施している事業の公益性が正式に認められました。3月21日付で内閣総理大臣から一般社団法人として認可する旨の許可書が届き、4月1日に一般社団法人への移行登記を行い、4月6日に移行完了の証明書が交付されました。また役員は理事16名・幹事3名で、理事の中から私が会長に、副会長には藤井宏一氏（冶金26）および城野政弘氏（機械38）が選任されました(会誌テクノネット2012年7月号に掲載)。

平成24年度から、新しい定款に従い公益継続事業と共益事業（同窓会活動）という二つの事業を実施しています。

公益継続事業としては

(1) 講演会・講習会・見学会等の開催による科学技術の振興並びに知識の啓発（定款第4条第1項第1号)。具体的には、各種講演会の開催および援助、数学講座の開催、工場･施設等の見学及び関係者による説明､科学技術展示会、ホームページ「Techno-Net Web」(http://www.osaka-u.info/）掲載による情報の伝達・啓発活動等の事業です。

(2) 大学における教育・研究活動並びに科学技術に関する調査・研究活動に対する援助および奨学（定款第4条第1項第2号)。具体的には、海外交流活動への助成、大学の科学技術に関する調査・研究活動に対する援助（寄附)、大阪大学工業会賞の授与等の事業です。

(3) 研究･科学論文誌等の刊行（定款第4条第1項第3号)。「Techno Net」を年4回（4月・7月・10月・1月）刊行します。

(4) キャリアアップの支援（定款第4条第1項第4号)。学生に対するキャリア教育を振興し、一般社会とりわけ産業界が何を求め、どのような人材を必要としているかを学生に自覚させることが重要とされています。このため本会が開催するキャリアデザインワークショップに合わせ、企業の協力を得て各種セミナーを開催し、会員・非会員を問わず学生のキャリア教育を推進します。

次に共益的事業（同窓会活動）としては、会員を対象とした総会（年1回)､理事会（原則年2回)､支部役員会（原則年2回）等の開催です。総会時には、講演会・交流会を同時に開催し、科学技術に関心のある会員にとって有益な情報交換会を行います。

平成24年度予算書（平成24年4月1日～平成25年3月31日）では、実施事業等会計（上記(1)～(4)別)、同窓会活動のためのその他会計、法人会計に区分して予算が計上されています。この予算のもとで現在の事業を実施しています。

本年は上記事業をこれまで以上に積極的に展開していきたいと考えております。本会活動への皆様の一層のご支援･ご協力をお願いし、新年のご挨拶とさせていただきます。

（電気　昭和33年卒　35年修士）

年頭所感

新年のご挨拶

大阪大学理事・副学長
（産学連携・情報担当）　　馬　場　章　夫

あけましておめでとうございます。

今年も工業会の皆様方にとって素晴らしい１年になることを信じております。また､穏やかで､幸せな日々がつづくことを心より念じております。

日本の将来にとって大切な年になると思います。戦後すぐに生まれて、日本の復興の中で揉まれながら、なんとかあがいて生きてきた経験を持つ団塊の世代が表舞台から降りていきます。そのようなときに、東北大震災をきっかけとはしていますが、日本復興が声高に言われるとともに、隣国との関係がきしみ始めています。さらに改革とか破壊とか威勢のいいことを言う人が増えているようです。歴史は繰り返すと言いますが、少し不気味な空気を感じています。自分で判断して自ら行動することが苦手で、我慢や辛抱のできない人が増えていなければいいのですが。

科学についても同じことが言えるのではないでしょうか。革命的な科学の進歩は、我慢と辛抱の果てになされるものであり、また人任せにしておいて達成できるものではないと考えるべきです。今のままでは、おかしな科学がおかしな方向に進むのかもしれません。いま声高に科学イノベーションが叫ばれていますが、その達成には、科学に関心をもち、参加して判断できる人を少しでも多くすることが大切です。盲目的に信用することや無関心は、ときに取り返しがつかなくなる恐れがあります。リーダー育成とともに考えておくことが必要です。

二年連続でこの原稿を書いている時に、山中先生のノーベル賞受賞のニュースが飛び込んできて、大喜びしているところです。長年の辛抱が花開いたところに余計にうれしさが増し、日本の科学のレベルの高さを証明してくれたことに感謝しています。これを契機に、科学に参加してみようと思う子供たちが一人でも増えることを念じています。科学の進展のためには、まず科学を志す人、科学に関心を持つ人を多く育てることであり、短絡的に言えば、日本において科学イノベーションを起こすためには、博士後期課程に進む学生の数を増やすことが最も大切で、効率の良い方法だと思います。日本ではそれほど難しくないことだと思いますし、最も現実的な方法です。

昨今、産学連携での科学イノベーションが日本の発展の大きな力になると言われています。大阪大学では企業が本気になって大学の中に入り、協働で新しいものを創り出す場として、協働研究所という仕組みをつくり、共同研究や課題探索など、2011 年に完成したテクノアライアンス棟で実践しています。おかげさまで多くの企業に参加いただき満杯の状態で、長年の共同研究の中には花開く段階に来ているものもあります。多くの学生や教員も活動に参加しています。ここは大阪大学の産学連携のスローガンである「industry on campus」のもとでの、共同研究を通じての人材育成の場でもあります。

今後は、さらに大阪大学の実力を上げて、大学院学生や若手教員を大きく育てることに注力し、科学に興味を持ち博士後期課程に進学する学生を増やしていき、社会に送り出したいと考えています。このような地道な努力を継続することが、今何より私たちには求められています。

工業会の先輩諸氏におかれましては、さらにご活躍をいただき、大学における活動にもご理解とご支援を賜わりますようにお願いを申し上げます。

（応化　昭和 46 年卒　48 年修士　51 年博士）

年頭所感

新春のご挨拶

大阪大学大学院
工学研究科長・工学部長　　掛　下　知　行

年初にあたり謹んでご祝詞申し上げますとともに、大阪大学工業会の皆様のご多幸を祈念申し上げます。

昨年は国内外において、政治・経済の低迷、近隣諸国との様々な摩擦、大学教員の給与引き下げなど、停滞感の漂う一年でしたが、昨年秋には京都大学の山中教授がiPS細胞の発見・発現によりノーベル賞を受賞されるなど、自然科学の分野において明るい話題も見え始めました。本年は、さらに明るい話題で溢れることを切に願いますとともに、工学研究科では、将来に向け生き生きとした夢のある新たな構想を大いに議論・企画する年にしたいと思っています。

大阪大学におきましては、一昨年夏からご就任の平野総長の下、全学の教育研究活動を統合する未来戦略機構が始動しています。工学研究科においても、「運営企画室」「教育学務国際室」「社会連携室」「財務室」「総務室」「情報広報室」の6室体制が順調に機能しています。本年は、それらに加えて将来の教育・研究活動に対する戦略的ビジョンの策定と支援のため「戦略支援部」の構築を図り、将来に向けた教育・研究活動のより一層の強化に努めてまいります。またこの部では、競争的研究資金獲得のための様々な試みも策定したいと考えます。周知のように、工学研究科は世界に誇る研究成果を長年にわたり発信し続けている教育研究機関であり、「世界を先導する研究力」という大きな柱に加え、「世界を牽引する高度工学系人材育成」がもう一つの重要な柱となっていることは言うまでもありません。この人材育成に関する三つの活動を以下に簡単に述べさせていただきます。一つは、昨年度4月の入学生から後期入学試験を停止し、前期入学試験のみに絞って実施するとともに、その成績評価基準も変えたことです。すなわち、センター試験の成績と工学研究科の専門科目の成績を加味した従来の評価に加えて、理科と数学を得意とする学生を別途設けた得点基準によって、一部選抜する入試制度を実施しています。これらの取り組みは、志望大学を決める第一段階である前期入学試験時に、大阪大学工学部に是非とも入学したいという将来の有望な人材の確保を図るものです。二つ目は、国際化に向けた教育活動に関するものです。現在大阪大学では約1900名の留学生が在籍し、その25%を超える500名程度の留学生が工学部・工学研究科で学んでいますが、今後さらにその数が増加すると予想されます。そのため、これまでに行った数々の留学生受け入れプログラムの更なる充実・拡大化を検討しています。また、受け入れとは逆に日本人学生を海外に送り出す研修プログラムを工学研究科自前で実施し、大きな成果を上げています。三つ目として、昨年9月に博士後期課程を修了した学生（主に10月入学）に対し、研究科長をはじめ列席の教員・学生全員がアカデミックガウンを着用した博士学位授与式を他の研究科に先駆けて実施しました。博士課程充実を謳った研究科として責任を持って教育活動を行った証として、また学位取得に至るまでの大いなる研鑽を称える場として、大切な研究科行事のひとつになると考えます。今後も3月期・9月期には同様の博士学位授与式を実施する計画です。

上記の諸活動に加え、工学研究科の強みの一つである産学連携活動では、現在16の共同研究講座ならびに4協働研究所が立ち上がっており（部局としては最大数）、その成果も着実に出てきています。

以上に述べましたように、徐々ではありますが確実に工学部・工学研究科の充実・発展がなされていると感じています。今後は、将来のグローバル化に対応できる教育・研究環境の一層の充実を図るとともに、広く社会でご活躍の同窓生の皆様方、さらには世界中の学生・研究者をより一層惹きつける魅力あるキャンパスを作り上げたいと考えます。また、将来的には学内外の多くの方々が集い、工学部・工学研究科の未来を大いに語るためのキャンパス施設ができればと願うとともに、このような環境の下で育った学生の中から、ノーベル賞やそれに匹敵する業績が多々生まれることを信じて、新たな年をスタートする所存です。

大阪大学工業会会員の皆様方からのご支援・ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

（学　界）

年頭所感

新年のご挨拶

大阪大学同窓会連合会会長
大阪大学元総長・名誉教授　　熊　谷　信　昭

会員の皆様、新年明けましてお目出とうございます。117年前の明治29年（1896年）に誕生した大阪工業学校を源流とする私共の工学部は昭和8年（1933年）に大阪帝国大学（現 国立大学法人大阪大学）の工学部になってから、今年で目出度く80周年を迎えることになりました。

この間、工学部は大阪大学とともに文字通り発展の一途をたどり、現在（平成24年11月1日現在）工学部の教員数は特任教員等を含まない専任教員のみで435名を数え、学生数も学部学生3,711名、大学院学生2,284名、計約6,000名に達し、そのうち女子学生が学部と大学院あわせて642名、留学生の数も517名の多きにのぼっています。この規模は優に一つの大学に匹敵するほどの大きさです。工学部と工学研究科のみで女子学生が642名もおられるというのも一昔前の旧制の阪大工学部を卒業した者にとっては驚きの一語に尽きる思いです。

82年前に我が国で6番目の帝国大学として医学部と理学部のたった2つの学部で発足した大阪大学の開学初年度（昭和6年度）の新入学生の数が僅か86名に過ぎなかったことを思いますと、まさに隔世の感があります。もちろん女子学生や海外からの留学生などは一人もいませんでした。

いまも大阪大学は世界の十指に入るような大学となることを目指して日夜努力が続けられています。工学部はその中核となる最大の部局です。

今年が大阪大学工業会にとりましても会員の皆様方にとりましても、さらなる発展の年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

（通信　昭和28年旧制卒）

年頭所感

「新年を迎えて」

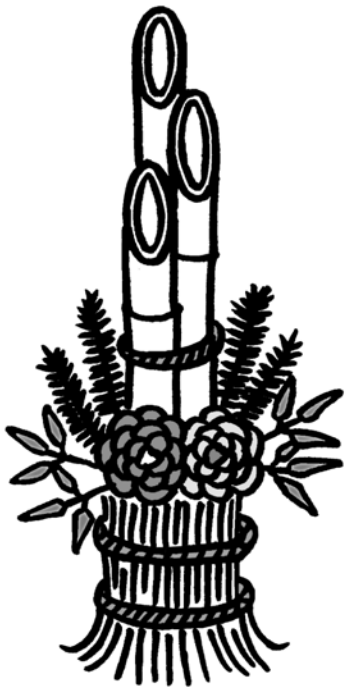
大阪支部長　　藤　井　宏　一

新年如何お迎えなされましたでしょうか。今年は今まで経験した事のない程、大きな試練の年、内憂外患の真っ只中に新年を迎えました。

この大きな試練を乗り越えるべく国民１人１人が絆をより強くし、気持ちを引きしめて取り組まねばならない年です。特に領土問題の絡んだ事だけに、一朝一夕では解決しません。永く続くものと考えるべきです。我々一丸となり国を守らねばなりません。一方国内も赤字赤字と言いながらどんどん赤字国債を発行するのではなく、如何に経済を発展させるかを計るべきです。

現在の私達は、なかなかきびしく生きにくい世の中に住んでいます。現実に妥協せざるを得ないことが沢山ありますが、この現実に負けず乗り越えてこそ、明るい未来があります。自分自身、自らを省りみて進むべく努力し、実りある年にしたいと願っています。

（冶金　昭和 26 年卒）



新年を迎えて

東京支部長　　池　田　博　昌

新年明けましておめでとうございます。癸巳の年を迎え、会員の皆様にはご清祥にて穏やかな新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。支部長をお引き受けして 12 年目に入ります。支部の運営に当たり、会員の皆様の温かいご理解・ご協力に感謝しております。

東日本大震災から１年 10 ヶ月が過ぎましたが、震災復興予算の不明朗な使途計画で、震災復興がままならない状況に心からお見舞い申し上げます。昨年は、山中伸弥・京都大学 iPS 細胞研究所長にノーベル生理学・医学賞が贈られるという非常に明るいニュースが飛び込んできました。その栄誉を称え、心からお喜び申し上げます。日本人が生理学・医学賞を受賞するのは 25 年振りであり、50 歳での受賞は誠に素晴らしいことです。また、夏にはロンドンオリンピックでの日本人の活躍に日本中が沸いたことも明るいニュースでした。北方領土・竹島・尖閣諸島での領土問題では先行き不安な成り行きで困ったものです。消費税の増税が決まっても赤字国債の急速な増大への対策は示されていません。悩んでいても仕方がありません。前向きに考えて明るい健康な生活を維持したいものです。

工学部卒業生が中心になって阪大技術士会（大阪銀杏技術士会と呼称）が昨年３月に発足し、会長には藤田　稔氏（応化旧 28 年卒）が就任されました。まだ会員は 50 名余ですが、今後の発展が期待されております。

OKC 東京支部の活動に関しましては、月例の夕方の「二日会」、昼食会としての「二水会」はいずれも会員相互の懇親を深める会として着実に開催しております。二日会には平均 22 名、二水会には平均 16 名の参加があり、毎月賑やかに話題が広がっております。二日会の機会に実施している「囲碁同好会」も毎月盛況です。四大行事と称している「総会」「ビールの会」「秋の集い」「新年会」では最近は 70 名程度のご参加を頂いております。ゴルフの会については昨年６月に 95 回大会を開催することができました。今年の１月５日には経済学部・法学部 OB との懇親ゴルフも始めることにいたしました。「旅行同好会」も軌道に乗るようになってきており、「黒部・立山アルペンルートへの旅」を３日間の観光とゴルフを楽しむ会として 10 月に実施しました。冬季には「スキー同好会」の活動も積極的に行われております。

四大行事には 100 名を目標として参加者の誘致に努力するなど、６名の副支部長の絶大なご協力により活性化に努力しております。本年も、支部活動のさらなる活性化に向けて引き続き取り組みますので、ご期待いただきたいと思います。東京支部の会員諸氏におかれましては、支部の各種催事に奮ってご参加いただきますよう、年頭にあたりお願い申し上げます。

（通信　昭和 34 年卒）